

○ 年間指導計画は、どのような点に留意して作成していけばよいか。

年間指導計画を作成する際には、次の点に留意して作成することが大切である。

1 児童の学習経験に配慮すること

総合的な学習の時間の年間指導計画を作成するに当たっては、当該学年までの児童の学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握し、その経験や成果を生かしながら年間指導計画を立てる必要がある。

2 十分な見通しをもった周到な計画にすること

年間指導計画は、学校の教育計画の根幹をなすものであり、前年度の適当な時期に次年度の計画を作成する必要がある。実際に児童を目の前にし、児童と話し合いながら総合的な学習の時間における学習活動を決める場合でも、前年度の学習活動の様子と、校内をはじめとする当該学年の過去の実践事例を基に、内容や育てようとする資質や能力及び態度を中心に計画を立案し、見通しをもって4月を迎えることが大切である。

3 季節や行事など適切な活動時期を生かすこと

年間指導計画の作成においては、1年間の季節や行事の流れを生かすことが重要である。地域や校内の行事等について、日程と内容の両面から、総合的な学習の時間の展開に生かしたり関連付けたりすることができるのかを、あらかじめ検討することが大切である。

4 各教科等との関連を見通すこと

年間指導計画の作成に当たっては、学習指導要領において各教科等の内容を確認し、関連的な指導が可能な単元については、相乗効果が得られるよう実施時期や指導方法を調整するなどの工夫が必要である。

5 学年間の関連を見通すこと

年間指導計画の作成に際しては、当該学年の中だけで考えるのではなく、第3学年から第6学年までを見通し、学習活動に重複や偏りがないか、学習の質的な高まりや段階的な積み上げがあるか、などを検討することが重要である。

6 弾力的な運用に耐えうる柔軟性をもつこと

年間指導計画は様々な要因を視野に入れ、周到に立てる必要があるが、それは決して固定的なものではなく、弾力的な運用に耐えうる柔軟なものでなくてはならない。

児童の興味・関心や問題意識の方向性が当初計画したとおりに展開せず「ずれ」が生じた場合や、方向性が同じでも想定していた児童の姿と実際の姿との間に大きな「隔たり」がある場合には、単元の展開途中であっても変更や改善を加えることが望まれる。

7 外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識すること

総合的な学習の時間を効果的に実践するには、保護者や地域の人、専門家などの多様な人々の協力、社会教育施設や社会教育団体等の施設・設備など、様々な教育的資源を活用することが大切である。